

東洋・日本美術史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
東洋・日本美術史特論Ⅰ	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	前期 月曜日 3講時
東洋・日本美術史特論Ⅱ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	前期 水曜日 3講時
東洋・日本美術史特論Ⅲ	奈良仏教絵画史論	2	谷口 耕生	通年集中 その他 連講
東洋・日本美術史特論Ⅳ	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	後期 月曜日 3講時
東洋・日本美術史特論Ⅴ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	後期 水曜日 3講時
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	美術史基礎資料読解	2	長岡 龍作	前期 水曜日 4講時
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	日本絵画作品研究	2	杉本 欣久	後期 水曜日 4講時

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM11308, 科目ナンバリング：LIH-ART601J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教的世界観を概観しながら、その世界観に基づく美術を時代順に論じていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world. In the first semester classes, I will provide an overview of the Buddhist worldview from the Asuka period to the Kamakura period, and discuss art based on that worldview in chronological order.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション：仏教の世界観とその表象
2. 飛鳥時代前期の仏教的世界観と美術
3. 飛鳥時代後期（白鳳時代）の仏教的世界観と美術
4. 奈良時代の仏教的世界観と美術1
5. 奈良時代の仏教的世界観と美術2
6. 奈良時代の仏教的世界観と美術3
7. 平安時代初期の仏教的世界観と美術1
8. 平安時代初期の仏教的世界観と美術2
9. 平安時代初期の仏教的世界観と美術3
10. 平安時代後期の仏教的世界観と美術1
11. 平安時代後期の仏教的世界観と美術2
12. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術1
13. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術2
14. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術3
15. まとめ—古代・中世日本の仏教的世界観と美術

8. 成績評価方法：

レポート [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM13305, 科目ナンバリング：LIH-ART602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 唐絵とやまと絵—江戸時代以前ダイジェスト
- 3回目 狩野派の系譜1—御用絵師・正信から元信へ
- 4回目 狩野派の系譜2—永徳と桃山の大家
- 5回目 狩野派の系譜3—探幽と江戸狩野の確立
- 6回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 7回目 英一蝶と英派の絵画
- 8回目 京の町絵師1—俵屋宗達から宮崎友禅へ
- 9回目 京の町絵師2—尾形光琳と乾山
- 10回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 11回目 刀装具と鐔の意匠性
- 12回目 雪舟流—長谷川派と雲谷派
- 13回目 近江商人の絵画と北関東への伝播—高田敬輔から小泉檀山へ
- 14回目 対外交易と長崎派
- 15回目 来舶清人・沈南蘋と南蘋派

8. 成績評価方法：

授業ごとに400字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画—中国絵画の受容と文人精神の展開—』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：単位数：2

担当教員：谷口 耕生

コード：LM98832, 科目ナンバリング：LIH-ART603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：奈良仏教絵画史論
2. Course Title (授業題目)：The History of Nara's Buddhist Painting
3. 授業の目的と概要：古代から中世にかけて仏教文化の中心地だった奈良は、各時代にわたって描き継がれた仏画の重要作品が数多く伝わっている。こうした奈良の地に視点を据えて古代から中世に至る仏画作品の展開を概観し、その絵画技法や図像、絵画工房、安置儀礼空間の問題などを考察する
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Nara, a center of Buddhist culture from ancient times and through the medieval period, has produced and passed down countless masterworks of Buddhist painting in each generation. In light of this importance, the course focuses on the region to explore the development of Buddhist paintings ranging from the [seventh through the sixteenth?] centuries, engaging such problems as painting technique and iconography, painting ateliers, and the enshrinement of paintings in the sacred spaces of rituals.
5. 学習の到達目標：①絵画技法の継承と伝播、②図像の受容と変容、③絵仏師の工房制作、④礼拝空間で担う機能の問題など、日本仏教絵画史研究の中心課題を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Developing a grasp of such the central themes of art historical research into Japanese Buddhist painting as:, including:
 1. The inheritance and transmission of Buddhist painting techniques; Painting techniques?Traditions and transformations;
 2. The reception and evolution of iconography;
 3. The construction of ateliers of Buddhist master painters; and
 4. The functions of ritual space.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義レジュメを配付し、代表的な作品、時代背景などを解説する。関連作品はプロジェクターによって提示する。

 0. ガイダンス
日本の古代中世絵画史研究において奈良の仏教絵画が担う重要な位置づけを確認。
 1. 天平絵画の彩色技法
法隆寺金堂壁画、聖徳太子唐本御影、絵因果経、鳥毛立女屏風や香印座など正倉院宝物の絵画作品を通じて、日本仏教絵画の源流ともいふべき奈良時代の絵画技法について考察。
 2. 奈良時代の儀礼と仏画 ①
法華堂根本曼荼羅の考察により、奈良時代の仏画が仏教儀礼空間においてどのような形で礼拝されたかを明らかにする。
 3. 奈良時代の儀礼と仏画 ②
薬師寺吉祥天像の考察により、奈良時代の仏画が仏教儀礼空間においてどのような形で礼拝されたかを明らかにする。
 4. 南都の平安仏画と宋代図像
達磨寺仏涅槃図の考察を通じて、院政期の奈良を代表する仏画に宋代図像の影響が顕著に認められることを指摘する。
 5. 南都仏画と天平復古①
天平絵画を写した白描図像である東大寺戒壇院扉絵図像、東大寺所蔵俱舎曼荼羅の分析を通じて、平安時代後期において奈良時代仏画の図像を復古的に用いた仏画が積極的に描かれたことの意義を明らかにする。
 6. 南都仏画と天平復古②
天平絵画を写した白描図像である東大寺戒壇院扉絵図像、東大寺所蔵俱舎曼荼羅の分析を通じて、平安時代後期において奈良時代仏画の図像を復古的に用いた仏画が積極的に描かれたことの意義を明らかにする。
 7. 中世南都の教学復興と美術①
鎌倉時代初期において奈良を拠点に教学復興や諸寺の伽藍再興を進めた解脱房貞慶。その思想が生み出した仏画作品を通じて、中世南都に広まった仏教絵画の特色を明らかにする。
 8. 中世南都の教学復興と美術②
鎌倉時代初期において奈良を拠点に教学復興や諸寺の伽藍再興を進めた解脱房貞慶。その思想が生み出した仏画作品を通じて、中世南都に広まった仏教絵画の特色を明らかにする。
 9. 中世南都の教学復興と美術 ③

鎌倉時代初期、京都・高山寺を拠点として南都仏教の中核を占める華嚴教学の復興に努めた明恵。その思想が生み出した仏画作品を通じて、高山寺を中心に広まった華嚴教美術や密教美術の特色を明らかにする

10. 春日曼荼羅の成立と展開①

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。

11. 春日曼荼羅の成立と展開②

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。11. The

12. 春日曼荼羅の成立と展開③

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。

13. 南都の寺院縁起としての信貴山縁起絵巻①

絵巻の最高傑作に挙げられる信貴山縁起絵巻が、南都信貴山本尊の靈験を説く日本最古の縁起絵巻であることを確認し、その制作に後白河院が関与したことを明らかにする。

14. 南都の寺院縁起としての信貴山縁起絵巻②

絵巻の最高傑作に挙げられる信貴山縁起絵巻が、南都信貴山本尊の靈験を説く日本最古の縁起絵巻であることを確認し、その制作に後白河院が関与したことを明らかにする。

15. 南都の祖師絵伝としての玄奘三蔵絵

玄奘のインド求法の旅を描いた玄奘三蔵絵、玄奘の旅行記である『大唐西域記』をもとに描かれた法隆寺五天竺図の分析を通じて、画面に投影された中世南都の仏教世界観を読み解く。

8. 成績評価方法：

レポート：7割

授業参加状況と小課題：3割

9. 教科書および参考書：

亀田孜『日本仏教美術史概説』（学芸書林、1970年）

有賀祥隆『仏画の鑑賞基礎知識』（至文堂、1991年）。

『日本美術全集③ 東大寺・正倉院と興福寺（奈良時代Ⅱ）』（小学館、2013年）。

『日本美術全集⑤ 王朝絵巻と貴族のいとなみ（平安時代Ⅱ）』（小学館、2014年）。

『日本美術全集⑧ 中世絵巻と肖像画（鎌倉・南北朝時代Ⅱ）』（小学館、2015年）。

10. 授業時間外学習：博物館・美術館・社寺などで実際に仏教絵画作品を見てもらいたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅳ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM21306, 科目ナンバリング：LIH-ART604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期はまず、平安時代の美術と関係の深い北宋時代の美術を紹介した後、清凉寺釈迦如来像の請来がもたらした平安時代以降の宗教美術の意義について論じる。その後、摂関期から鎌倉時代の宗教美術について、代表的な僧侶の思想を踏まえた観点から論じていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world. In the second semester classes, I will first introduce the art of the Northern Song Dynasty, which is closely related to the art of the Heian period, and then discuss the significance of religious art since the Heian period, which was brought about by the arrival of the Shaka Nyorai statue at Seiryōji Temple. Afterwards, we will discuss religious art from the Sekkan period to the Kamakura period from a perspective based on the thoughts of representative monks.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 鎌倉時代までの世界観と釈迦信仰
2. 北宋・遼美術の諸相1—盧舎那仏と梅檀瑞像
3. 北宋・遼美術の諸相2—盧舎那仏・釈迦・舍利
4. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像1
5. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像2
6. 平安時代の仏像と納入品
7. 重源の思想と美術1—東大寺再興と別所
8. 重源の思想と美術2—東大寺再興と別所
9. 貞慶の思想と美術
10. 春日信仰と美術—仏身論とその表象
11. 五台山と文殊菩薩像
12. 明恵の思想と高山寺の美術
13. 叡尊と忍性の思想と美術
14. 鎌倉時代の華嚴思想と美術
15. 仏身論から見る鎌倉時代の美術

8. 成績評価方法：

レポート [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論V／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)V

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23305, 科目ナンバリング：LIH-ART605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観し

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス 一美術史と鑑定
- 2回目 江戸と浮世絵1 一菱川師宣・西川祐信・鈴木春信一
- 3回目 江戸と浮世絵2 一東洲斎写楽と喜多川歌麿一
- 4回目 江戸と浮世絵3 一葛飾北斎と歌川広重一
- 5回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 6回目 武士の絵画1 一鑑戒一
- 7回目 武士の絵画2 一暢神一
- 8回目 京都と円山派1 一円山応挙一
- 9回目 京都と円山派2 一応挙の門人たち一
- 10回目 京都と四条派 一蕪村、呉春とその門人 一
- 11回目 天下の台所・大坂の絵画
- 12回目 江戸の絵画1 一18世紀の絵画状況(谷文晁の登場前夜)
- 13回目 江戸の絵画2 一谷文晁の登場と洋風画の隆盛
- 14回目 伊藤若冲 一その真実を探る

8. 成績評価方法：

授業ごとに400字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画一中国絵画の受容と文人精神の展開一』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社1970年代後半)

『日

10. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史研究演習 I / History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM13409, 科目ナンバリング：LIH-ART606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術史基礎資料読解

2. Course Title (授業題目) : Reading the historical documents of art history

3. 授業の目的と概要：この演習では、美術と深く関わる基礎資料を読み込み、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。『校刊美術史料寺院篇』・『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』・『江都督納言願文集』・『転法輪抄』・『俊乘房重源史料集成』・『西大寺叡尊傳記集成』から造像に関わる願文（または表白）を選び、それを素材としていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, we will read basic documents deeply related to art. Through the reading, we will find how it relates to the remaining artworks and practice creative reading of documents.

5. 学習の到達目標：基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探求する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students acquire the skill to understand basic documents, and try to find the way to use documents creatively in art history research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して授業資料と授業情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー造像銘記ならびに納入文書について
2. 発表準備
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 像内文書・願文を読む
7. 像内文書・願文を読む
8. 像内文書・願文を読む
9. 像内文書・願文を読む
10. 像内文書・願文を読む
11. 像内文書・願文を読む
12. 像内文書・願文を読む
13. 像内文書・願文を読む
14. 像内文書・願文を読む
15. 総括と講評

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

テキスト：『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）、『江都督納言願文集注解』（塙書房）、『貴重古典籍叢刊 6 安居院唱導集上巻』（角川書店）、『国立歴史民俗博物館研究報告』188

10. 授業時間外学習：参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23408, 科目ナンバリング：LIH-ART607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本絵画作品研究

2. Course Title (授業題目) : Training to read information of the Japanese paintings

3. 授業の目的と概要： 「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現し、さらに美術館や博物館における絵画分野の担当学芸員として必要なスキルを獲得するため、毎回、実物絵画資料を掲示し、そこから情報を読み取る訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides programs of training to read information on the Japanese paintings in the Edo era.

5. 学習の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。

本講は作品を置き去りにしないため、対象に即して読み取るべき情報やその優先順位を見極める能力の向上を目指す。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course aims to improve the students' ability to read information on the Japanese paintings.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

実際の絵画資料を掲示し、受講生が協力しながら作品の調査を行う。必要な情報を整理しつつ、その内容をまとめてプロジェクトカードおよびレジュメを作成し、翌週に口頭発表を行う。

1 回目 ガイダンス

2 回目以降 どのような作品を対象とするかはその都度、相談しながら設定することとする。

8. 成績評価方法：

十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

10. 授業時間外学習：日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。